

共に考える (60)

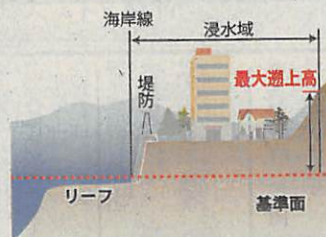
「明和級」暮らしに想定

(社会部・富里美紀)

古文書の教訓今に

八重山・宮古地方を襲った「明和の大津波」。石垣島付近で起きたマグニチュード7.8と推定される地震が要因とされる。

津波は、地震発生に伴う海底の隆起や沈降などにより、周辺の海水が上下に変動することによって起こる。海水が巨大な水の塊になって沿岸に押し寄せる。津波が引く時も、



最大潮上(そじょう)高

各地区で津波が到達する最高の
標高

津波第一波到着時間

地震発生から津波第一波のピークが海岸に到達するまでの時間

■ **津波被害予想** 出典：沖縄県(一部加工)

市町村名	代表地点	津波到達 時間(分)	最大通過高(m)					
			0	10	20	30	40	
国領村	奥	16	11.3					
	安田	17	19.4					
東村	高江	15	15.4					
	川田	19	17.4					
	有銘	24	19.5					
名護市	喜島	17	25.2					
	瀬原	20	16.7					
	久志	21	13.7					
宜野湾村	渡部	22	13.3					
金武町	伊模	29	6.6					
うるま市	石川	38	5.7					
	宇堅	28	9.1					
	照間	32	5.2					
中城村	平敷屋	22	10.4					
	池味	16	16.8					
	勝連浜	21	14.1					
沖縄市	兼久	20	22.4					
	トマイ浜	17	7.7					
	海邦町	35	6.3					
北中城村	熱田	31	7.4					
中城村	久遠	28	8.8					
	浜	28	8.8					
	南浜	27	9.1					
与那原町	与那原	30	7.1					
	新原	30	5					
	久原	26	5.8					
南城市	安座真	19	11.1					
	奥武島	15	12.8					
	徳仁港	12	14.3					
八重瀬町	真志頭	14	23.1					
	栄根	14	18.6					
	喜原武	17	11.7					
糸満市	糸満漁港	21	7.3					
	与根	27	7.6					
	那覇市	29	8.4					
豊見城市	那覇港	33	7					
	港川	34	9.5					
	大山	32	9.7					
宜野湾市	北谷公園	35	7.4					
北谷町	砂辺	30	6.8					
	水谷	26	7.1					
	新里	24	10					
真幸納町	真幸田	25	6.3					
豊後村	前兼久	27	7.8					
	恩納	28	4.3					
	名嘉真	28	5					
名護市	喜連	37	9.8					
	名護漁港	34	10.2					
	安和	28	7.6					
本部町	本部港	30	9.6					
	大樽原	30	10.7					
	備前港	22	8.9					
伊江村	伊江港	24	11.8					
今帰仁村	今治	24	5.3					
	大井川河口	28	5.3					
	真嘉比	51	7.2					
名護市	清井出	48	6					
	塩原	39	5.7					
	喜如島	36	10.3					
伊是名村	打島	25	13.8					
	仲田港	27	10.6					
	前泊港	27	10.9					
伊平屋村	田名漁港	17	11.1					
	辺土名	36	9.3					
	辺野喜	25	6.3					
渡嘉敷村	渡嘉敷港	25	8.4					
	渡嘉敷久	27	7.9					
	安達の浦	27	11.6					
座間味村	座間味港	29	11.8					
	阿嘉漁港	28	15.8					
	渡名喜漁港	15	8.9					
渡名喜村	奥田	17	5					
	仲里漁港	8	5.8					
	鉢田	18	6.5					
久米島町	兼城港	11	11.6					
	久米島空港	4	1					

市町村名	代表地点	津波到達 時間(分)	最大遡上高(m)					
			0	10	20	30	40	
宮古島市	眞島漁港	36	18					
	高野漁港	35	26.5					
	浦底漁港	28	21.9					
	保良	17	24.7					
	友利	16	28.3					
	富国	19	26.5					
	与那覇湾	32	9.8					
	平良港	38	12.5					
	大浦湾	44	14.1					
	池間	35	17.3					
	大特	37	17.7					
	佐良港	38	13.4					
	伊豆部	31	25.9					
	佐和田	33	15.3					
	栄湾港	22	20					
	多良間村	水納湾	10	21.2				
前泊港		11	22.3					
石垣市	曾天間湾	9	17.5					
	平野	5	24.5					
	明石	12	23.9					
	伊原間	12	35					
	伊野田	15	38.4					
	大島	10	36					
	白保	8	23.4					
	喜良港	9	24.2					
	大浜	7	26.6					
	登野城漁港	8	18					
	石垣港	12	14.9					
	名盛崎	30	7.8					
	川平湾	15	14.7					
	浦底湾	17	16.4					
	野底	11	10.7					
	竹富町	船越漁港	14	19.4				
平久保		6	14.7					
竹富漁港		23	11.8					
カイクイ港		20	9.4					
黒島東岸		14	13.2					
富里		11	11					
黒島港		17	10.5					
小浜港		27	7.2					
ビルマ崎		23	12.8					
船崎漁港		29	7.7					
上地		18	9.9					
下地		16	16.6					
鳩間港		28	8					
船湾		37	7.8					
高部		41	8					
与那国町		古見	27	9.8				
	仲間港	17	11.9					
	南風見	18	23.8					
	龍川湾	20	40.4					
	船浮港	29	8.3					
	千立	23	14.9					
	浦内	25	15.9					
	波照間漁港	14	22.8					
	船崎空港	7	18.5					
	船崎港	19	10.8					
	比川	14	14.4					
	久留保漁港	17	11.9					



作業員(右端)の右方にある白い砂の上に見える濃い赤土色に染まった層(砂層)が明和の大津波の痕跡。一本の横線のようにになっている＝2012年(仙臺崇三教授提供)



明和の大津波で流されたとされる「津波大石(つないういし)」の胴回りを計測する学生。標高10mの場所に、高さ7~8m、胴回り38cmの巨石がある=2015年5月9日(仲座栄三教授提供)

西表島で40・4メートル

最大遡上高が予想

時)で28丈2尺(約85m)の地点まで明和の大津波が到達したとも記されている。

仲座教授が2012年、宮古島の友利元島の調査で海抜約20mの地点まで波が達した痕跡を見つけた。

12〜16年の石垣市白保での

調査では、津波石に付着したサンゴの年代鑑定などから海抜約45mの地点まで波が達したと分かった。

しかし、明和の大津波の最大遡上高は諸説あり、明らかになっていないという。仲座教授は「最大遡上高約85m」という数値は、当時の人が大津波の怖さを後世に残して与えられた教訓として捉えるべきだ」と話す。

東日本大震災では、岩手県大船渡市の綾里湾で局所的に

40・41までの題上高が観測された。仲摩教授は「沖縄にも東日本大震災を超える津波が来る可能性は否定できない」と語る。

行政は東日本大震災の教訓をふまえて「津波に耐えうる街づくり」などの対策を検討すべき」とし、「沖縄地方の主要な住宅地は海抜5m以下にある。私たちは津波を常に意識した生き方を模索しないといけない」と訴えた。

「津波浸水想定」。県内で最大の上高が最も高く想定されているのは竹富町西表島の鹿川湾で40・4釐。石垣市伊野田38・4釐、同中里36釐、同市伊原間35釐と大東山地方が続く。本島地方では名護市嘉陽の25・2釐が最も高く、次いで八重瀬町具志頭で23・1釐だった。

識者などで構成する県津波浸水想定設定検討委員会は、琉球海溝側、沖縄トラフ側

明和の大津波をもたらした八重山地震の震源として再現しただけでなく、それぞれマグニチュード7・8～9・0の地震が発生した場合を想定。県内の各地点で、内陸へ津波が駆け上がる高さや示す期上高や、津波が到達する時間などを予測した。

一方、地震発生から第一波が海岸に到達するまでの想定時間は、久米島空港の4分が最短で、石垣市平野の5分が最長。内閣府の防災対策推進

の想定で5・10分で津波が来ると想定している。県内で津波到達時間が10分以内と想定されているのは、前述の2カ所以外に10カ所。石垣市平久保6分、同市大浜と竹富町波照間空港各7分、久米島町仲里漁港と石垣市警野城漁港、同市白保のそれぞれ8分、多良間村萱大間港と石垣市宮良湾各9分、石垣市大里と多良間村水納港各10分と、漁港周辺が多かった。

明和の大津波（1771年）痕跡

石垣島

石垣市大浜・崎原公園